

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月11日
札幌市立北野中学校

1 今年度の学校経営の方針

- (1) 学ぶ力の育成に向けて、教職員全員の熱意と創造に満ちた教育活動の推進を目指す。
- (2) 生徒、教職員相互の信頼関係を基盤とした人間関係を醸成し、心のふれあいを大切にされた教育活動を通して豊かな心をもつ生徒の育成を目指す。
- (3) 生徒一人ひとりの個性を見取り、自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成を目指す。
- (4) 健やかな体づくりを推進するとともに、生徒の教育的ニーズに的確に応える学校を目指す。
- (5) 関係小学校ならびに家庭・地域社会との連携に努め、学校教育への理解と協力を得て、信頼される学校を目指す。

2 今年度の重点目標

- (1) 自ら学び、共に生きる力を培う学校づくり
- (2) 信頼と協働の精神に満ち、豊かな心をはぐくむ学校づくり
- (3) 生徒理解を基盤とした学校づくり
- (4) 健やかな体の育成と生徒の発達への支援を行う学校づくり
- (5) 信頼される学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
自ら学び共に生きる力を培う	教育目標や経営方針、重点は適切である。(学校生活は充実している)	A	引き続き、札幌市の「学校教育の重点」に照らし合わせながら、また各種アンケート調査、学校評価の結果、そして生徒の実態を踏まえ、教育活動の改善に努めていきたい。	A	A
	授業に対して、集中して意欲的に取り組めるような工夫をしている。	A	一部時間への意識が不足している部分もあったが、概ね生徒は授業へ集中し、落ち着いて取り組んでいる。ICTの活用は進んできているが、単なる調べ学習から、個別最適な学び(自学自習)へと段階を上げていくことを目指したい。	A	A
	適切な評価・評定を行い、生徒が次の学習に目標がもてるように努めている。	A	今後も、生徒に身に付けさせたい力に合わせた授業内容・評価を適切に行っていく。また、その評価内容や各種テストの結果を生徒・保護者に適切に還元し、授業改善や進路指導にも活かしていきたい。	A	A
	総合的な学習の時間は、生徒の興味・関心を生かした適切な指導計画と学習内容である。	B	次年度は現行の指導内容の中で、生徒の興味関心を生かしながら思考力・判断力・表現力を高めていきたい。また、再来年度に向けて表現力、により重点を当てた教育課程を検討していく。	A	A
信頼と協働の精神	自主的・積極的な生徒の育成のために、適切で活発な生徒会活動が行われている。	A	来年度の行事について、大きな変更はないが、生徒会活動が、今後もしっかりと自治的な活動につながるようになっていきたい。行事の教育的価値を維持しつつ、生徒および教職員の負担軽減に視点を置き、持続可能な運営形態を模索していきたい。	A	A
	ボランティア活動を通じて、奉仕の精神やつながりを大切にしている。	A	参加することに加え、地域社会への貢献をより実感できるような振り返りや活動内容の周知を行い、より奉仕の精神を学ぶことのできる工夫を行っていきたい。	A	A

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒理解を基盤とした心身共に健全な学校	教育相談週間や日頃の相談活動を通して生徒理解に努めている。	A	定期的に教育相談期間を設け、教育相談アンケートも活用しながら生徒の状況理解に努めている。今後も、生徒の変化に早期に気づき、対処できる体制を維持していきたい。また、相談後のフィードバック体制を整え、生徒・保護者が安心感を得られるフォローアップを心掛けていきたい。	A	A
	生徒たちに対し、積極的に声かけをしている。	A	どの学年も休み時間を中心に、生徒への声掛けを積極的に行っている。今後も生徒との交流や対話を大切にし、生徒が相談しやすい体制、関係づくりを行っていききたい。	A	A
	道徳の授業を通して、思いやりの心や人との繋がりを大切にする心を育てている。	A	教科書を用い、目標としている道徳的態度、実践力を育成するために計画的に授業を実践している。今後も研鑽を深めながら、全校体制で、道徳科以外のすべての教育活動の中で道徳心を育てていきたい。	A	A
	生徒指導上の共通理解が図られ、きまりやマナーを守る等の指導が、同一歩調でなされている。	B	生徒の実態は常に変化しており、指導事項も近年変化がみられる。そのため指導体制やフォローアップの改善が不可欠になるが、その上でも、全教職員が同一歩調の指導となるようにしていきたい。	A	A
	いじめや問題行動の未然防止・早期発見・迅速な対応に努めている。	A	いじめ対策委員会を毎月必ず開催し、問題があった際には、継続的な見守り、支援ができる体制をつくっている。実際にトラブルが起きた時は、迅速かつ適切な対応を連携をとりながら行った。今年度はSNSのトラブルが急増し、課題となっている。今後、SNSのリスクや管理など「自分を律する力」を育てる指導を家庭と連携しながら進めていきたい。	A	A
	生徒の健康・体力についての意識を高め、健やかな身体づくりに努めている。	B	運動への興味や体力の向上、集団づくりの一貫として、休みに体育委員会主催のドッジボール大会を行った。保健の授業では、「生命の安全教育」(性暴力)について取り扱い(1・2年)、健康安全面についても指導を行った。今後も継続したい。スマホなどICT機器の利用時間への生徒の肯定感が60%台に留まっており、情報モラル教育が急務となっている。	A	A
信頼される学校づくり	地域や保護者に学校の情報を積極的に発信している。期末懇談や授業参観の時期や回数は適切である。	B	保護者への情報発信は、HPの他、近年連絡用アプリ「すぐる」を使用している。今年度はすぐるの活用頻度を増やしたが、今後、すぐるとHPの役割を明確にするなど改善をすすめ、保護者との連携、協力的体制づくりに努めていきたい。	A	A
	事故防止のための安全管理に気を配っている。	A	6月と10月の2回避難訓練を行うことができた。内容は火災の場合の避難と不審者への対応の仕方について実践的な訓練を行った。今後も、どのタイミングや状況であっても、生徒自身が判断し、行動・避難ができるような取組の工夫をしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、改善策は、共に適切です。 ・信頼される学校づくりに努めていただきたい。 ・「自己評価の適切さ」、「改善策の適切さ」ともに妥当と思います。また、アンケートの自由記述については、厳しい指摘もきちんと掲載されており、信頼できました。(ただ、アンケート項目と評価項目のリンクがよく分からないところも多少ありました。また、生徒の評価と教職員の評価にかなり差がある項目について、生徒の評価は低い教職員の評価が高い(またはその逆)場合の達成状況の評価がどうしてその評価するのか分かるとうれしいです。 ・これからもボランティア活動(福祉除雪・福祉まつり・夏まつり等)への参加により、地域と子供の絆を深めてもらいたい。 				